



平成 27 年 5 月 1 日

各 位

日本マクドナルドホールディングス株式会社  
 代表取締役社長 サラ・エル・カサノバ  
 (コード番号: 2702 JASDAQ)  
 問い合わせ先 財務本部執行役員 今村 朗  
 T E L 03-6911-6000

## 平成 27 年 12 月期第 1 四半期連結決算状況および特別損失の計上のお知らせ

日本マクドナルドホールディングス株式会社の平成 27 年 12 月期 (平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日) の第 1 四半期累計期間 (平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日) の連結業績および特別損失の計上につきまして、下記の通りご報告致します。

**ハイライト**

- 食の安全・安心にかかる一連の問題による影響やビジネスリカバリープランに伴う一時的な投資および費用に伴い、売上高、利益ともに対前年比で大幅な減少
- 既存店売上高は改善傾向にあり、第 3 四半期にはプラスに転ずる見込み
- ビジネスの回復の加速と将来の成長の礎を築くためにビジネスリカバリープランを確実に実行し、中長期的な成長を目指す

(単位: 百万円)

	平成 27 年第 1 四半期		
	実績	対前年比	
全店売上高*	83,029	-39,916	-32.5%
連結売上高	40,874	-21,451	-34.4%
連結営業利益	-9,962	-12,365	-
連結経常利益	-11,124	-13,314	-
連結当期純利益	-14,594	-15,857	-

\*全店売上高: 直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高

	平成 27 年第 1 四半期	
	対前年比	
既存店売上高	-32.3%	
既存店客数	-23.9%	
全店客数	-24.3%	

平成 27 年第 1 四半期は食の安全・安心にかかる一連の問題による影響が大きく残っているなど、依然として予断を許さない経営環境が続いており、全店売上高は対前年比 399 億円減少の 830 億円となりました。この売上高の減少に加えて、ビジネスリカバリープラン (※1) に伴う一時的な投資および費用を 50 億円計上したこと等により経常利益は 111 億円の損失となりました。また、特別損失に減損損失を 35 億円計上したこと等により当期純利益は 145 億円の損失となり、4 月 16 日に発表した通期連結業績予想の通りの進捗となっております。上半期については、一時的な投資および費用が集中して計上される予定のため大きな損失となります。しかし、既存店売上高対前年比が-32.3%であった第 1 四半期から 4 月は-21.5% (速報値) となるなど売上高は改善傾向にあり、下半期は売上高・利益ともに徐々に改善していくと見込んでおります。

今後も引き続き食の安全・安心に関する活動を最優先事項として取り組んでまいります。その上でビジネスの回復の加速と将来の成長の礎を築くために、「よりお客様にフォーカスしたアクション」「店舗投資の加速」「地域に特化したビジネスモデル」「コストと資源効率の改善」の 4 つの柱からなるビジネスリカバ

リープランを確実に実行してまいります。そして、より地域やお客様に寄り添った活動を展開し、「お客様と心でつながる、モダン・バーガー・レストラン」を目指してまいります。

(※1:ビジネスリカバリープランにつきましては、4月16日に公表いたしました「平成27年12月期 通期業績予想の発表 および ビジネスリカバリープランに関するお知らせ」をご参照ください。)

<参考：一時的な投資および費用の内訳>

第1四半期に計上された一時的な投資および費用の内訳は以下の通りです。なお、年間見込額は平成27年4月16日発表した予定額から変更はございません。

(単位：億円)

	年間見込額	第1四半期計上額		
		経常利益 影響額	特別損益 項目	合計
店舗投資の加速	58	-	-	-
早期希望退職制度	8	-	-	-
フランチャイズ関連の財務施策	126	50	-	50
減損損失	49	-	35	35
マーケティング費用等の投資	14	-	-	-
合計	255	50	35	85

以上

※この資料は兜倶楽部、東京商工会議所記者クラブ、外食産業記者会に配布しております。